筆記課題解答及び解説

訓練課題（筆記解答及び解説）

「大工用工具の取扱い」

解答用紙

筆記課題「大工用工具の取扱い」

1問2.5点

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 入所年月 | 番号 | 氏名 | 合計点 | 評価判定 |
| 平成　　年　　月入所 |  |  | ／100 |  |

評価判定基準　Ａ：80点以上 「到達水準を十分に上回った」

Ｂ：60点以上80点未満 「到達水準に達した」

Ｃ：60点未満 「到達水準に達しなかった」

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ○ | × | × | ○ | ○ |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| × | ○ | × | ○ | × |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| × | × | ○ | ○ | × |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| ○ | × | ○ | ○ | ○ |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| ○ | × | ○ | × | × |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| × | ○ | × | ○ | ○ |
| 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |
| ○ | ○ | × | × | × |
| 36 | 37 | 38 | 39 | 40 |
| ○ | ○ | ○ | × | ○ |

筆記課題「大工用工具の取扱い」　解説

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 設問No | 解答 | 解説 |
| 1 | ○ | 表目は一般的に用いられるメートル法による目盛り  裏目（角目）は表目の√2倍の長さ  丸目（円周尺）は表目を円周率で割った長さ |
| 2 | × | さしがねの長手側20cmくらいの位置を握りると、安定して材料の縁にあてがい、つま手側でしるすことができる。 |
| 3 | × | 100mmをしめす。  裏目の100mmは、表目では100mm×√2＝141.42 |
| 4 | ○ | 丸目で円の直径を測定すると、円周の長さが表示される。 |
| 5 | ○ | 図は、2/10こう配を表している。 |
| 6 | × | 加工墨とは、加工箇所を示す墨線のことで、各部分に図面の寸法をとる（けがく）ことである。 |
| 7 | ○ | 墨つぼの軽子に結ばれたつぼ糸を利用して、長い材面や湾曲した材面などに長い直線を引くことができる。 |
| 8 | × | 墨線を引く場合には、（ａ）の平たい方を利用する。  （ｂ）は記号や文字を書くのに適している。 |
| 9 | ○ | 縦引きの歯は、三角形で元歯から末の方になるにしたがい大きくなっている。横引きの歯は、小刀のような形状で元歯から末まで同じ大きさである。 |
| 10 | × | 図の状況の場合は、木材の繊維を切断するので、両刃のこぎりの横引きを使う。 |
| 11 | × | のこぎりは、柄尻を握り、柄頭は軽く握る。 |
| 12 | × | 刃先に指先をぴったり合わせると、刃先で指を切る恐れがあるので図のように添える。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 設問No | 解答 | 解説 |
| 13 | ○ | のこぎりは引く時に切削される。 |
| 14 | ○ | 引き終わりは速度と力をゆるめ、ゆっくりと切り落とす。大きな材は、ひき材の下に受け台を入れておく。 |
| 15 | × | 裏押しをする際は、金砥と金剛砂を使用する。中砥石･仕上砥石は使用しない。 |
| 16 | ○ | 砥石が動くとよく研げない。また滑って研いでいる刃で怪我をする恐れがある。 |
| 17 | × | べた裏という。裏切れは、下図の状態のものである。 |
| 18 | ○ | かんな刃を押すときに刃が研げる。 |
| 19 | ○ | 砥石に水を含ませておき、摩擦による熱の発生を防ぐため。刃物に熱が入ると、刃の焼きが戻ってしまい、切れ味は落ちたりしてしまうのを防ぐため。 |
| 20 | ○ | 砥石の一部分を使用してしまうと、砥石の凹凸が部分的に出てしまうため。 |
| 21 | ○ | かんなの裏押しをする際には金砥と金剛砂を使用する。 |
| 22 | × | 素手で砥石に水を注ぎ、かんな刃には水をもっていかないようにする。 |
| 23 | ○ | かんな刃に裏金をつける事により、逆目をおきにくくしている。 |
| 24 | × | 逆目である。  順目：逆目になる心配はない  柾目：木端柾目でも面が順目とはかぎらない。  　　　逆目になる場合もある。  逆目と順目が混じっている木目。 |
| 25 | × | 木表である。  木裏  木表  木口  木端 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 設問No | 解答 | 解説 |
| 26 | × | 木材(板材)は、乾燥すると、木表が凹に反る性質がある。  図は、木表側に凸に反っているので誤りである。 |
| 27 | ○ | ①の部分を台頭　②の部分を台尻とよぶ。  ①  ② |
| 28 | × | ①の部分（台頭）をたたいて抜く。    抜き方　　　　　　　　出し方 |
| 29 | ○ | 向こうまちのみ＞追入れのみ＞薄のみの順に角度を大きく取る。  のみの刃先角度   |  |  | | --- | --- | | のみの種類 | 刃先角度 | | 向こうまちのみ | 30～35°ぐらい | | 追入れのみ | 25～35°ぐらい | | 薄のみ | 20～25°ぐらい | |
| 30 | ○ | 叩きのみにのみ、冠がはめ込まれている。 |
| 31 | ○ | 追入れは、叩きに属し、冠をはめ込んだ柄頭部分をげんのうで叩いて使う。 |
| 32 | ○ | 太ももの内側を大動脈が走っていて、負傷すると危険なため。 |
| 33 | × | 通し穴は、片面からでなく、両面から掘り進める。 |
| 34 | × | 刃先に左手があるので、危険、力があまって材料を突き抜ける。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 設問No | 解答 | 解説 |
| 35 | × | 刃先より左手が前にあるので危険。また、材料が固定されず不安定なので、危険。刃先の前には絶対に手を置かない。 |
| 36 | ○ | 材料を足で固定して、のみの刃先を下向きにして作業する。 |
| 37 | ○ | 当て止めで材料が滑らず安定する。 |
| 38 | ○ | 木殺しは、木材の弾力性を利用して行う方法で木材の繊維質が破壊しない程度に軽くたたくことで、胴付きをよく密着させたりするときに行う。 |
| 39 | × | げんのうの重さを生かして振り下ろすとよい。 |
| 40 | ○ | 打ち付ける箇所が木口面の場合、繊維に平行に釘を打つ事になり、絡みにくく抜け易くなるので長さを長くする。 |